

愛知県(県域)

1 産地の概要

＜対象品目＞いちじく

＜産地の現状・課題＞

- 県内のイチジク産地では、長年の肥培管理により、リン酸、カリが過剰に蓄積している園地が多く見られる。
- 令和4年まで、基肥＋追肥型における、配合肥料のL型肥料を検討し、リン酸・カリ成分で30%の削減、施肥量40kg/10a削減ができ、施肥の省力化、生産資材コストの低減につながった。
- さらなる省力化のため基肥＋追肥(5～10回)の施肥体系から年1回の施肥体系による施肥の省力化を図る。現行の年1回施肥いちじくワンタッチN-P-K(14-7-7)を改良したN-P-K(20-5-10)の有機入いちじくワンタッチ(改)によるリン酸削減を実証する。
- ハンディーソー等の活用によるせん定作業の省力化を実証する。

2 検討体制

- 農業革新支援センター：事業の企画・調整、技術指導、栽培マニュアル・産地戦略の取りまとめ
- 普及指導センター：農業者との調整、実証ほの運営管理、調査・技術指導、栽培マニュアル及び産地戦略の検討
- 農業総合試験場：試験方法、栽培マニュアルに関する助言
- JAグループ：取組の運営支援
- 農業者：実証ほ管理及び技術の検証

○配合＋追肥型との比較

リン酸：62.7%削減、カリ：45.7%削減
施肥回数：最大11回 → 1回
施肥量：最大240kg → 100kg
省力・低コスト

○現行の年1回施肥との比較

リン酸：49.0%削減
施肥回数：1回 → 1回(変わらない)
施肥量：140kg → 100kg
省力・低コスト



ハンディーソーの使用状況

3 グリーンな栽培体系

＜環境にやさしい栽培技術＞

取組項目	作業段階	新たに取り入れる技術
化学肥料の使用量の低減	肥培管理	＜取り入れる技術＞ 低リン酸型肥料の導入

＜省力化に資する技術＞

作業段階	新たに取り入れる技術
施肥・せん定作業	＜取り入れる技術＞ ・配合肥料＋追肥の施肥体系から年1回施肥体系への移行 ・ハンディーソー及びレシプロソーの活用によるせん定作業の軽労化

4 活動内容及び得られた成果

＜活動内容＞

- 肥培管理：現地8か所での実証
- せん定作業：現地2か所での実証

＜実証結果＞

- 肥培管理：低リン酸型肥料に変更しても、イチジクの生育、果実品質に問題はなかった。
- せん定作業：ハンディーソーによりせん定作業時間が30%削減できた。

5 今後の展開

低リン酸型肥料を活用した年1回施肥体系と省力的な栽培管理の定着を図る。これにより、園地に蓄積したリン酸・カリの適正化と施肥・せん定作業の省力化を実現するとともに、高品質果実の安定生産を維持する。